

▽デザインワークショップシリーズ

～「大企業から飛び出したデザイン人材」～

日時：2013.10.05

於：KRP 京都大学デザインイノベーション拠点

10月5日、KRP 京都大学デザインイノベーション拠点において、「大企業から飛び出したデザイン人材」と題しワークショップが開催された。社会を変革するリーダーと対話しよう、をキーワードに企業からドロップアウトし、デザインを武器に起業されている4名の講師をお招きし、社会変革に関わる広義での「デザイン」について参加者とともに議論し考える場となった。なお本ワークショップは京都大学、デザインスクール内に限らず、一般の参加者にも広く門を開く形で行われた。

講師紹介

小林 慎和 氏 (Diixi)

櫻井 亮 氏 (Designit)

田村 大 氏 (リ・パブリック)

原 雄司 氏 (K's DESIGN LAB)

進行：寺田知太 (デザイン学ユニット非常勤講師)

第一部：傾聴

ワークショップを開始するに当たり、進行役の寺田氏から京都大学デザインスクールの簡単な紹介と本日のアジェンダ説明が行われ、その後、第一部「傾聴」として、4名の講師陣の紹介を兼ね、それぞれ10分程度を持ち時間でご自身のバックグラウンドや現在のフィールドについてお話を頂いた。短い時間ではあったが、四者四様の内容は、本ワークショップで広義のデザインについて議論していく切り口となった。



第二部：対話

小休憩を挟み、二部では4名の講師陣に対する Q&A を含むパネル形式で行われた。「大企業を飛び出して良かった事、苦勞したこと」という質問から始まり、そこから議論や話題が派生していく形でディスカッションは進んだ。会場からも「大企業でできること、できないことは?」「今後、大企業に戻る選択肢はあるか?」等という質問が挙り、講師陣がそれぞれの思いや考えを語った。また、逆に講師から「大企業に就職したいか?」という質問が飛ぶ一幕もあり、講師と参加者の「対話」が意識されたセッションとなった。

第三部：創る

第三部では「創る」と題し、実際にワークショップを行った。まず始めに寺田氏からテーマである、「京大デザインスクールで社会を変革するリーダーを育てるためのプログラムデザイン」についての説明があり、その後、予め A~D に割り振られた参加者は各講師陣に仮社員として配属され、1時間のワークショップが開始された。ワークショップは各講師がファシリテータとなりテーマに挑戦する形で行われた。進め方はチームによって異なっていたが、どのチームでも活発な意見交換がなされ、熱気に満ちた1時間であった。



第四部：魅せる

第四部では第三部で形にした、テーマに対する各チームの提案プレゼンが行われた。パワーポイントなどを一切使わず、手作りのフリップやホワイトボードを使ったプレゼンは第三部の熱気そのままに進行していった。チーム A(Designit)はデザインメソッドを用いてディスカッションを重ね、「ライオン型プログラム」と題した人間力を鍛えるプログラムを提案された。チーム B (K's DESIGN LAB)からは、マインドマップを活用し、水曜どうでしょうプログラム(辺境の地が変わったアイテムを手渡され放置されサバイバルを行う)、10人

のノートを使って 100 万稼ぐなどというユニークな提案がなされた。チーム D (Diixi) は社会を変革するということにフォーカスを充て政治家と友達になろうという主旨のプログラムを、チーム C (リ・パブリック) も半径 1 m 以内の世界を変えるということをキーワードに「道の駅」をアナロジーとしてディスカッションの成果を発表された。



エンディング

最後に今日半日を振り返る意味を込め、参加者に「分かったこと」、「分かっていないこと、気になっていること」、「明日、はじめること」という 3 つの項目について記述したポストイットをそれぞれ貼ってもらい、本ワークショップは幕を閉じた。

経営管理大学院 佐藤那央、山内裕